

観光ビジョン・観光立国推進基本計画掲載施策

2026年までのKPI

消費拡大に効果の高いコンテンツの整備

連携する省庁

北海道運輸局

概要

同じ観光コンテンツ・アクティビティ・観光施設で、同じ人に、「ガイド利用あり」「ガイド利用なし」の双方を体験してもらい、満足度等がどの程度変わるのかを検証する動画を撮影・発信。

課題

ガイドを利用した観光・旅行をする人は依然として少ない一方で、ガイドならではの魅力は実際に体験してみなければ伝わりにくい。そのため、ガイド利用の価値が十分に認識されず、利用が広がりにくいという構造的な課題。

ガイドの地位向上・担い手不足解消のためには、ガイド人材の育成など供給面の取組のみならず、需要面の取組も必要不可欠。

取組の成果

取組方法

体験者が『ガイドを利用しない場合』と『利用する場合』の双方を体験した様子を紹介するとともに、その違いから得られた気づき・感想を率直に語ってもらった。

特定の観光地・ガイドのPRではなく「ガイドを利用すること」の魅力伝えることに特化した動画として作成。

取組の効果

- <動画作成本数>
- ・日本人向け動画(日本語) 1本
- ・インバウンド向け動画(英語) 2本
- ・インフルエンサーによる発信: 2名



- 日本人向け動画
- 撮影場所: 奥尻島(奥尻21世紀復興の森)
- 動画URL: https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/00001_00622.html
- ※TEAM NACS 森崎博之氏 出演



今後の取組方針

- ・各動画の定量評価(視聴回数、インプレッション数等)と定性評価(北海道内の旅行者に動画を視聴してもらい、ヒアリング調査を実施)を実施、分析結果を公表。
- ・作成した動画は、利用条件の範囲内で誰でも自由に放映可能な形で公開中。観光事業者・地域の皆様にご協力いただき、放映場所を拡大。

観光ビジョン掲載施策

2026年までのKPI

「地方創生回廊」の完備
インバウンド受入環境の整備

連携する省庁

概要

季節変動が大きい地域特性のあるニセコエリア（倶知安町、ニセコ町）における冬季期間のオーバーツーリズムによる交通課題解決を図るために、期間限定でタクシー車両・乗務員を他の営業区域から派遣の上、タクシーによる「ニセコモデル」を構築する。

課題

地域：ニセコエリア

- ニセコエリアは、季節変動が大きい地域特性から、特に冬季にタクシー不足の状況がある。
- 増加する訪日外国人旅行者、地域住民双方への影響が顕在化している。
- 山麓付近の公共の駐車場が従業員マイカーやホテルの送迎車などで混雑し、渋滞も発生するなど走行環境が悪化。



取組の成果

取組方法

「ニセコモデル」

＜取組主体＞ 北海道ハイヤー協会、札幌ハイヤー協会等
 ＜取組時期＞ 令和7年12月16日～令和8年3月15日
 ＜取組内容＞

○札幌、青森、東京、隣接交通圏事業者からニセコエリアへタクシー27両、乗務員63名(令和5年度11両25名、令和6年度20両45名)を「応援隊」として派遣。遠隔点呼、アプリ配車の特化等の体制により、ラストワンマイルの足を確保する実証実験を3年連続で実施。なお、地元事業者も5社27両がアプリを導入しており、供給を大幅に増強。

取組の効果

○令和5年度の輸送回数は1万5千回以上、令和6年度は前年比約2倍を超える4万回以上と実績が増加。令和7年度は、過去の蓄積から判明した課題を踏まえた対策を、かつ、前年度以上の規模の応援隊を結成し、より大規模かつ実態に即した交通サービスを提供。

ニセコモデルのイメージ



今後の取組方針

本実証実験が現状改善の一助となるよう、実証実験の結果を踏まえながら取組みを継続的に支援を行い、引き続き地元関係者での議論を深め、多面的に検討を進める。

観光ビジョン掲載施策

2026年までのK P I

「地方創生回廊」の完備・インバウンド受入環境の整備

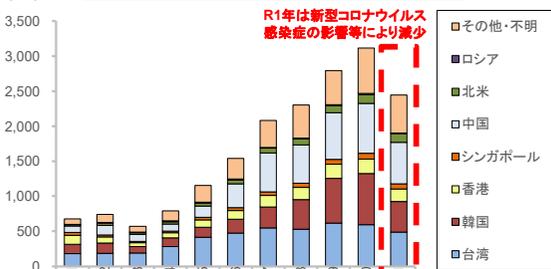
連携する省庁

- 北海道には豊かな自然環境や景観等、特徴的で魅力的な観光資源が存在し、近年、来道する外国人旅行者数は急増。観光立国の実現に向けて北海道が果たす役割は大きい。
- 一方で、インフラの整備や、インバウンド観光による経済効果の地方部への波及などが課題。
- 特に北海道は、近畿・中国・四国地方の合計面積に匹敵する広大な地域であり、都市間距離は全国の約2倍と、国内他地域とは異なる広域分散社会を形成しており、いまだ主要都市間や観光地等を結ぶ高規格道路等の未整備区間が存在し、十分なネットワークが構築されていない。
- 観光地への交通アクセス改善を図るため、高速交通体系の整備を推進し、国際競争力の高い魅力ある観光の振興を目指す。

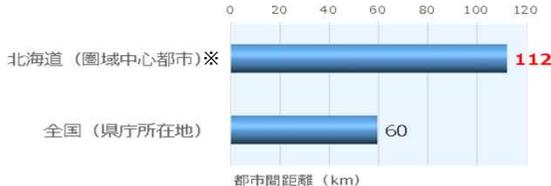
課題

近年、来道外国人旅行者数は急増している一方、北海道の都市間距離は全国の約2倍と、広域分散社会を形成し、主要都市間や観光地等を結ぶ高規格道路等のネットワークが十分に構築されていない。

来道外国人旅行者数：10年で約4倍



北海道の圏域中心都市間の平均距離は全国の約2倍



取組の成果

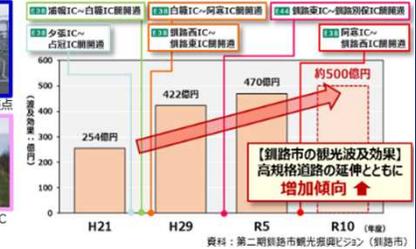
取組方法

令和6年12月22日に、道東自動車道(阿寒IC～釧路西IC 延長17km)が開通。当該区間は、釧路空港と釧路・根室地域に点在する観光資源のアクセス性を向上させ、広域観光の周遊性向上に資する道路。

●釧路市街地通過の所要時間の変化(釧路空港～釧路町別保)



●釧路市の観光消費による経済波及効果

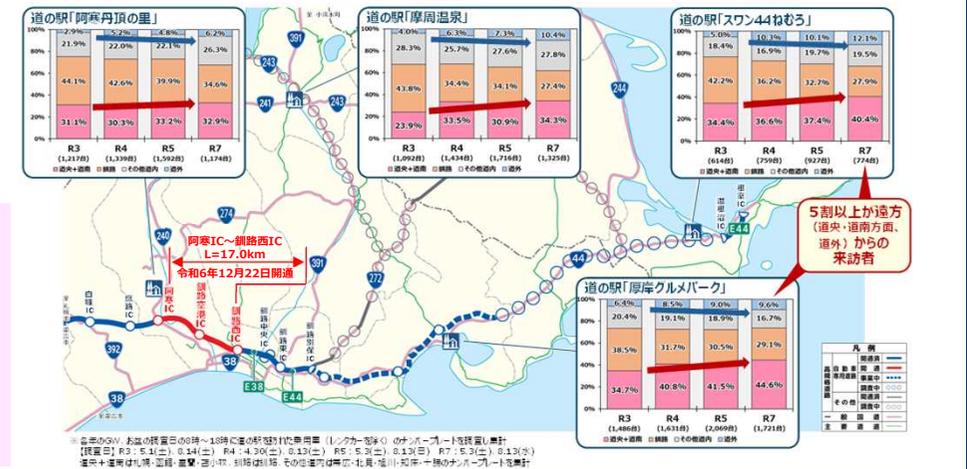


取組の効果

阿寒IC～釧路西の開通により、釧路空港から釧路市別保までの所要時間は、本別IC～浦幌ICの開通前と比べ、夏期で23分、冬期で25分短縮。

また、観光期(GW、お盆)の釧路・根室地域の道の駅来訪者は、道央・道南方面や道外といった遠方からの来訪者割合が増加傾向。

●観光期(GW、お盆)の釧路・根室地域の道の駅来訪者割合の変化



今後の取組方針

引き続き高規格道路等の整備を進め、主要都市間や観光地等を結ぶネットワークの充実を図る。

観光ビジョン掲載施策

2024年までのKPI

「地方創生回廊」の完備・インバウンド受入環境の整備

連携する省庁

概要 観光先進国や地方創生の実現に向け、「観光地に隣接する」または「観光地へのアクセス道路入口となる」交差点の交差点名標識の観光地名表示により、訪日外国人をはじめ、すべての旅行者にわかりやすい道案内を推進。

課題

観光客の増加に伴い、観光地等へのアクセスのため、訪日外国人旅行者を含めた全ての旅行者にとってわかりやすい道案内とする必要がある。

地域：北海道全域

取組の方法

＜対象観光地の選定＞

対象の観光地等の選定は、地域要望を十分考慮のうえ検討し、関係機関や地元等との調整を踏まえ、北海道ブロック道路標識適正化委員会で議論し、改善を実施。



取組の効果

交差点名標識に観光地名称を表示し、観光客に向けて観光地へのわかりやすい案内を提供。観光客より「案内標識が目に入り迷わず行けた」等の意見があった。

【改善前】

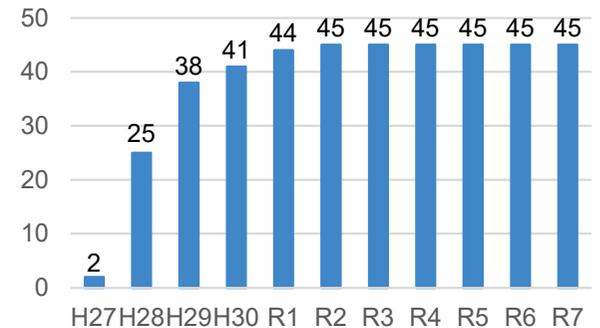


【改善後】



取組推移

交差点標識名改善の取組箇所数(累計)



今後の取組方針

引き続き、地域要望を踏まえ取り組みを継続していく。

グランドハンドリング体制の充実に係る取組の成果

観光ビジョン・観光立国推進基本計画掲載施策

2026年までのKPI

地方空港のゲートウェイ機能強化とLCC就航促進・インバウンド受入環境の整備

連携する省庁

国土交通省

概要

急速なインバウンド需要の増大に対応しつつ、空港機能が持続可能な形で維持・発展できるよう、航空機の運航に不可欠なグランドハンドリングの体制強化を推進する

課題

○グランドハンドリングを含む空港業務は、コロナ禍からスタッフが減少するなど人手不足等の問題に直面



ランプハンドリング



保安検査

取組の成果

取組方法

- グランドハンドリング体制の充実
 - ・ 空港業務の生産性向上に資する取組の推進
 - ・ 空の日イベントに合わせた空港業務の紹介・情報発信
 - ・ 就職イベントや職場見学会の開催



- ・ 日本航空学園と「持続的発展に向けた航空・空港人材育成事業」の協同



取組の効果

○グランドハンドリング業務の認知上昇

今後の取組方針

- 説明会・見学会開催
人員不足解消に向け、各企業が実施
- 航空教室の開催
若年層をターゲットに業務体験できる航空教室を開催し、認知度の向上と職業観の形成を狙う
- 関係者WGの開催
地上支援業務の課題解決へ取り組む

グランドハンドリングを強化し、道内空港の国内・国際線ネットワーク拡大を目指す

観光ビジョン・観光立国推進基本計画掲載施策

2026年までのKPI

クルーズ船受け入れの更なる拡充・インバウンド受入環境の整備

観光立国推進基本計画（令和5年3月31日閣議決定）

連携する省庁

北海道開発局

＜目標＞ 2025年
 訪日クルーズ旅客を250万人
 外国クルーズ船の寄港回数を2,000回超え
 外国クルーズ船の寄港する港湾数を100港

概要

釧路港におけるクルーズ下船後に乗客が利用するに二次交通の運行体制を検討するため、関係機関や地元交通事業者とともに「釧路港国際クルーズ船二次交通強化検討会」を設立し、地元主体の運行体制によりシャトルバスの実証運行を実施した。

課題

地域：釧路市

- 釧路港では大型クルーズ船が入港可能な西港区第4埠頭が市街地から遠く、市街地への二次輸送が必要となるが、運転者の不足等から営業区域内だけではバスの確保が難しい状況にある。
- クルーズ船寄港時の二次輸送不足により、乗客の満足度低下や経済効果拡大の機会損失に繋がっている状況にある。

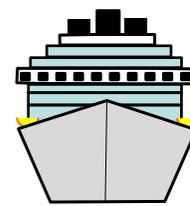
取組の成果

取組方法

釧路港で関係機関や地元交通事業者とともに「釧路港国際クルーズ船二次交通強化検討会」を設立し、地元主体の運行体制によりシャトルバスの実証運行を実施した。
 詳細URL: jtfkjs00000005t4.pdf

取組の効果

シャトルバスを約1,100名の乗船客が利用し、釧路市街地への観光活性化に寄与した。

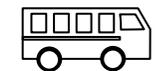


クルーズ船



旅客乗組員

シャトルバス



シャトル輸送

釧路港西港区

市街地

今後の取組方針

- 地元自治体、地元事業者を主体としたシャトルバス事業の継続的な運営を実施するために、引き続き運営体制等の検討を進めていく。

交通と観光の共創による北海道MaaSに係る取組の成果

観光ビジョン・観光立国推進基本計画掲載施策

2026年までのKPI

公共交通利用環境の革新
インバウンド受入環境の整備

連携する省庁

北海道運輸局

概要

北海道観光でストレスなく移動でき、地域の観光消費に繋げる仕組みづくりに取り組む。

課題

地域：北海道全域

○観光情報や移動経路の検索・入手はWEBを活用しシームレスに取得することが主流となっており、公共交通事業者や観光事業者の連携及び情報発信の強化が課題である。

○道内の一部自治体や交通事業者においてMaaS構築に向けた取組が行われているが、全道的な取組とはなっていない。

○運転者不足が深刻となる中、DXの推進により、運転者の負担軽減や業務効率化が求められている。

取組の成果

取組方法

＜取組主体＞

北海道観光機構、北海道経済連合会、北海道商工会議所連合会、交通事業者 等

＜取組内容＞

昨年度にとりまとめた『北海道MaaSのグランドデザイン』をより具体化するとともに、MaaSの実装に向けた課題を明らかにする。

また、道内複数エリアで、交通サービスの高度化、モビリティデータの取得と活用等を図り、MaaSの高度化を図る実証事業等を実施する。

取組の効果

○グランドデザインの具体化等を行うため、『北海道MaaSプラットフォーム会議』への交通事業者、自治体の更なる参画を募り検討を実施し、今後の取組概要を取り纏めた。

○国土交通省の補助事業も活用し、道内複数エリアでMaaSの実装に向けた取り組みを推進した。

今後の取組方針

○今年度取り纏めたMaaS実装のためのGTFS-JPデータ等を整備・オープン化する『北海道MaaSデジタルプラットフォーム』の実装に向け、運営体制等について更なる検討を行い深度化を図る。

○『北海道MaaSデジタルプラットフォーム』の運営体制構築に向け、基礎自治体、観光協会、交通事業者にプラットフォーム会議への参加を促す。

○交通事業者のGTFSデータエリアの拡張と更新を基板とし、検索性や検索経路の連続性をユーザーに寄与できる手法を既存の検索エンジン等を利用して提供することを検討する。

○道内複数エリアで行ってきたMaaSの実装に向けた実証事業の深度化を図る。

オホーツク文化を核とした「オホーツク遺跡街道」構想事業に係る取組の成果

観光ビジョン・観光立国推進基本計画掲載施策

2026年までのKPI

新たな交流市場の開拓

- 2024：モデルコースの策定、ロードマップの作成
- 2025：モデルコースの磨き上げ、ガイド人材養成プログラムの作成
- 2026：コンテンツの磨き上げ、ガイド人材の継続養成、推進体制の確立、受入体制整備

連携する省庁

北海道運輸局

概要

●オホーツク文化は、今から千年以上前、オホーツク海沿岸を中心に栄えた海獣狩猟民族の文化です。豊かな食生活、クマやシャチを祀る独特な自然観、特有の文様を持つ土器など、この地に短期間のみ存在した希少な歴史遺産であり、地域のアイデンティティとして未来へ継承すべきものと考えられています。

●この文化を観光資源として活用する「オホーツク遺跡街道構想」(以下、「遺跡街道構想」)を推進するため、観光庁の「地域・日本の新たなレガシー形成事業」に採択されました。これを受け、令和5年度から7年度にかけて、モデルコースの造成やガイド人材の養成などを実施しています。

課題

地域：紋別市、網走市、北見市、興部町

遺跡街道構想の推進にあたって、以下の課題が存在

- ・ 関心、認知度の不足
- ・ 面的な取組に向けた地域連携の不足
- ・ 推進体制が不確実
- ・ ガイド人材の不足
- ・ 地域の精神性と暮らしのリアリティが伝わるコンテンツの不足



取組の成果

取組方法

R5~7にかけて、北海道や自治体、観光団体等と連携し、以下の取組を実施

- ・ オホーツク文化に関する現状調査
- ・ 推進組織の立ち上げ、構成員拡大
- ・ 現地WSを開催し、モデルコース案を検討
- ・ モニターツアーを実施し、参加者アンケートによりコンテンツの満足度や改善点を調査
- ・ ガイド養成講座の開催

取組の効果

- ・ 認知度や観光資源の現状を把握
- ・ 推進組織として「オホーツク遺跡街道推進ネットワーク」が発足
- ・ モデルコースの策定
- ・ モニターツアー参加者の意見を集約し、各コンテンツの磨き上げの方向性を確認
- ・ ガイド人材の知識理解向上

今後の取組方針

R7年度までの成果を受け、R8年度以降に以下の取組を実施予定

- ・ オホーツク遺跡街道推進ネットワークの法人化等による組織体制強化
- ・ 各コンテンツの磨き上げの実施、新規コンテンツの開発・充実
- ・ 持続可能なガイド人材養成システムの確立
- ・ 多言語化等の受入環境整備
- ・ 誘客に向けたプロモーション強化



ガイド養成講座の様子